10.14 観察会レポ

― 実録・これがバカマツタケだ！―

菊乃

巧妙に隠匿された黄色いカサ。だが敏腕きのこハンターHiroko の嗅覚は騙せなかった。記者はその奇跡の瞬間を目撃した！

数日前は夏日の場所もあったというのに、前日から冷たい雨が降り 10 度以上も気温が下がった観察会当日。ちょうど採集が始まる頃には雨が小止みになったものの肌寒く足元はぬかるむが、きのこオンシーズンとあって参加者の期待はいや増し、それぞれいちはらクオードの森（千葉県市原市）へと分け入ってゆく。記者は最後に出発した隊に張り付いた。

滑る尾根道をしばらく進み、杉林から広葉樹の森へと入る。と、やにわにきのこハンターが呟いた。「マツタケの匂いがする！」と。隊員が色めき立ち、周囲の急斜面を探索し始めた。するとハンターの一声。「ほら、黄色いカサが！」全員に衝撃が走る！！

森の至宝バカマツタケがそこにあった。まごうことなき強いマツタケ臭。歓声をあげ交代で写真を撮りに行くが、記者はズルズルと斜面を落ちかけてしまい、せっかくのバカマツタケのすみかを荒らしてしまっていないか心配になった。

その後同定会場へ戻る道々、Toshimitsu 隊長が「バカマツタケが１本採れただけでこんな豊かな気持ちになるのはどうしてだろう」と語っていたのが印象的であった。

同定台にはバカマツタケが他にも何本か置かれ、大量のウラベニホテイシメジのなかには驚くような巨大な一本も。珍しいルリハツタケも目を楽しませてくれる。そんな多種多様でカラフルな秋のきのこが並び、またそぼそぼと雨が降り出したが参加者には満足げな笑顔が多く見られ、なごやかにおひらきとなった。